

(別紙様式3)

平成28年 3月31日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 東京都小平市たかの台2番1号
管理機関名 学校法人 創価学園
代表者名 理事長 原田 光治 印

平成27年度スーパーグローバルハイスクールに係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

平成27年 6月 1日 (契約締結日) ~平成28年 3月31日

2 指定校名

学校名 関西創価高等学校
学校長名 中西 均

3 研究開発名

TRY人(じん)の郷・交野から
平和の創造に挑戦するグローバルリーダー育成プログラム

4 研究開発概要

Active Learning の土台の上に、国連が提起している地球的課題について探究し、世界の平和に貢献するグローバルリーダーとしての使命感・共感力・問題解決への創造力を育む教育活動を高大連携して開発する。

5 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
運営指導委員会 の開催			○	○				○			○	

○Learning Cluster については、高校2年生、3年生より16名を選抜し、Field Work in Tokyo、Field Work in America を実施。年間を通して英語での探究が進み、高校生による平和への提言「Peace Proposal」を完成した。希望する生徒が多く明年度は26名に拡充する。

○Active Learning については、SGH 提携校である創価大学教授による教員対象の校内研修を2回実施、研究授業ウィークを2回開催、外部セミナー等への参加等行い、「環境・開発・人権・平和」を各教科でもトピックに取り上げ、SGH に繋がる授業改善が推進された。

○Newspaper in Education については、年間を通して各クラスで取り組み、コンクールでも入賞者が出た。Feel Japan Program については、ほぼ計画通り進んだが、留学生とともに古都を訪問し、日本文化や歴史を紹介する計画は日程と移動方法、安全性等の問題で進まなかった。

7 目標の進捗状況、成果、評価

○SGH プログラムとして、SGHA 時代での蓄えを利用し、1年目の取り組みはおおよそ順調に進んだ。GRIT の2年目のカリキュラムも作成しながら推進し、教材、教案ともに完成した。UP Class も新規に取り組み、企画運営は大変であったが、生徒の評判もよく、大きく視野を広げる機会となった。Learning Cluster を目標とする1年生が多く、申請の条件としたことで Advanced English の受講生は熱心に学ぶことが出来ている。

○グローバルリーダーを目指す生徒の意識も大きく向上し、「国際理解・国際協力のための高校生の主張コンクール」において1年生が文部科学大臣賞を受賞し3月国連訪問団に参加した。また模擬国連部の2名が全国大会で優秀賞を受賞し5月の国際大会に出場が決定するなど国際的なコンクール等で実績を積んだ。高校3年次のTOEICスコアも平均して445点まで向上し、13名が海外大学へ進学した。また米国ミドルベリー大学院モントレイ校大量破壊兵器不拡散研究所での「日米露の高校生による核不拡散教育会議」に参加することとなった。さらに Learning Cluster の生徒はチョウドリ元国連事務次長にもアドバイスをいただき、「Peace Proposal」を英語で完成させた。2月には、全校生徒が数名1チームとなり地球的課題を探究し、自分たちで解決方法を作りだし、保護者ならびに研究発表会で来校された教育関係者の皆様にプレゼンを行いその成果を発表した。

○全校生徒の72.9%がGRITに触発されたと評価し、83.2%がSGHプログラムを「大変によかった、よかった」と評価した。また70.4%が自分の考えに影響を与えたと答え、さらに35%が進路決定に影響したと答えた。将来海外大学への進学・留学については69.3%が希望した。また82.8%の生徒がGRITに積極的に参加したと自己評価した。英検についても1月の準1級受験者が101名となり、文科省の「トビタテ留学JAPAN」の申込者も増えるなど、海外へ目を向ける生徒が飛躍的に増えた。運営指導委員の皆様にも「順調に進んでいる」とのお言葉を頂戴した。

<添付資料> 目標設定シート

8 次年度以降の課題及び改善点

○GRIT は全員を対象としているが、さらに満足度を上げる必要がある。あくまでも100%の生徒が GRIT を学ぶことに意義を感じ、積極的に取り組めるよう、内容の精査と時間配分の工夫を行う。国内外のフィールドワーク参加者はのべ86名であり、さらに多くの生徒が社会の諸問題の現場に学ぶ機会を設けることが課題である。

○本年は新たに東北大学との提携を推進することが出来、追加研究事業として、3月下旬に東北フィールドワークを行った。そのため年度末の日程の中で決算や研究報告書の作成に苦勞した。今後は全体のスケジュールを調整する必要がある。

○UP Class の時間が放課後であるため、学校の諸行事、クラブ活動と重なる生徒から調整の希望があった。明年度は火曜日から木曜日に変更し、校内の各分掌にも UP Class 優先のご協力をいただく。

○SGH カリキュラムの作成も進んでいるが、ユネスコスクールの申請、国際バカロレアの申請検討も相まって、長期的な展望に立ち、トータルした計画が必要である。

○2学期の後半以降、関西在住の大学院生に TA として全クラスに入ってもらい種々アドバイスを受けたが、本校の予定と大学院生の予定が合わず、人数確保に苦勞した。急に来校できない場合もあり、余裕ある体制が必要と思われる。

【担当者】

担当課	経理募金課	T E L	072-891-0011
氏 名	米田 利一	F A X	072-891-0015
職 名	課長	e-mail	yoneda@soka.ed.jp